

## 第2章 基本的な考え方

### (1) 基本理念

「沖縄こどもの国」を通称とする「沖縄こども未来ゾーン」は、「こどもたちの夢と希望を育み、人をつくり、環境をつくり、沖縄の未来をつくる人材の育成」を目的として設立され、沖縄県内唯一の本格的な動物園として親しまれている。

しかしながら、動物園エリアの一部施設の老朽化や立地の特性に伴う園路の起伏による歩行の困難さ、ユニバーサルデザインへの配慮不足、来園者の多くが県内からの来園に偏っていること、観光庁や沖縄県の観光施策で重視されている海外からの積極的な観光客誘致への対応不足等の課題が見られる。

これを受け、平成26年度より日本一ユニークな施設をめざし、「沖縄こどもの国」の再整備の検討を進めている。

日本一ユニークな施設整備の検討に際し、「沖縄こどもの国」の設立の目的である人材の育成に加え、国内外からの観光誘客に寄与する魅力的な施設をめざし、下記のとおり基本理念を掲げ、整備に取り組むものとする。

#### 基本理念

－つながりを感じ、生み出す場所－

### ツナガリウム

いのちの縦のつながりを知り、  
いきることの横のつながりをわかちあう。  
縦と横のつながりの融合と深化により、  
新たなつながりを生み出す。  
ツナガリウムとは、つながりを感じ、理解し、共有することを通して、  
新たなつながりを生み出す人材を育む場所である。

「沖縄こどもの国」の施設整備は、「ツナガリウム」の実現をめざし、  
推進する。

## <考え方>

### ●いのちの縦のつながりを知る

「沖縄こどもの国」は、生物の進化、生態系や遺伝子等の多様性、動物と人との関わり等、長い時間のなかで重ねられてきた、「いのちの縦のつながり」について知る場所とする。

動物展示を中心に、動物たちの種や生態、生息環境等に関する紹介のほか、絶滅又は絶滅の危機に瀕している種等、多様な視点で「いのちの縦のつながり」を展開し、いのちが未来へつながれていくことの難しさや不思議さ、大切さを感じてもらおう。

### ●いきることの横のつながりをわかちあう

「沖縄こどもの国」は、世界中から多くの人々が集い、動物と同じ空間のなかで時間や体験を共有することで、多様ないのちのあり方や価値観を発見し、「共に生きる」ことを感じ、理解する場所とする。

人が日々の営みのなかで交流しつながりあって生み出してきた食や風習、音楽等の多様な「文化」についても展開することで、「横のつながり」を感じ、わかちあうことができるようにする。

### ●縦のつながりと横のつながりの融合と深化

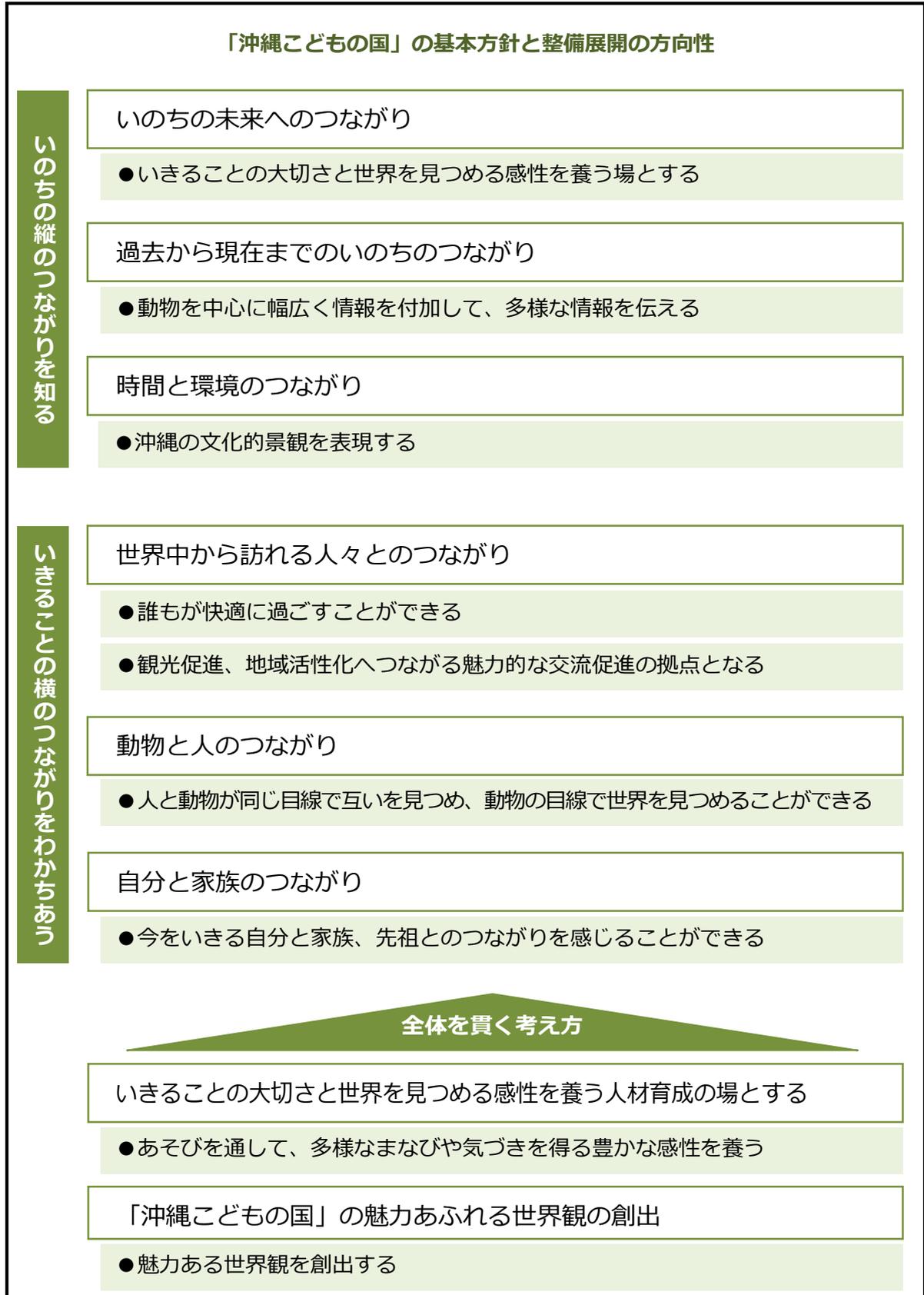
「いのちの縦のつながり」と「いきることの横のつながり」の考え方を融合し深化させ、あそびや多様な体験をとおして、感じる心、気づく力、考える力を身につけることで、新しい“つながり”を生み出していく人材を育成する魅力ある施設を目指す。

—つながりを感じ、生み出す場所—

**ツナガリウム**

## (2) 基本方針

基本理念の実現に向け、次ページに示す基本方針及び整備展開の方向性に基づき、施設づくり及び事業活動を行う。



### (3) 整備展開の方向性

#### いのちの未来へのつながり

##### いきることの大切さと世界を見つめる感性を養う場とする

- ・楽しみながら、多様ないのちのつながりとその大切さを感じる心を持つ人材を育む。
- ・過去から現在、そして未来へ続くつながりに気づく心を持つ人材を育む。
- ・動物たちが生息する環境の保全等、過去からの「つながりを未来へつなげるためにできること」を考える力を持つ人材を育む。

#### 過去から現在までのいのちのつながり

##### 動物を中心に幅広く情報を付加して、多様な情報を伝える

- ・「沖縄こどもの国」にいる動物に限定することなく、多様な動物、また過去に絶滅した生き物たちも含めて、「いのちのつながり」について伝える。
- ・動物展示を中心に、関心の喚起を促す展示演出と共に、より深い情報の付加を行う。

#### <整備展開の方向性>

##### ○動物園の保護・繁殖機能の向上

動物園の役割の一つである「種の保存」というテーマは、絶滅に瀕する動物が世界中で増加する中、生息地外での生きる場の提供という面で、ますます重要になってきている。沖縄の温暖な気候を活用し、保護・繁殖の取り組みの強化を図り、動物園として動物収集計画や専門職員の充実等、運営体制の強化も視野に入れる。

##### ○動物園、展示解説機能の充実

動物たちを取り巻く文化的環境の紹介や動物たちの生態、いきる姿を身近な視点からいきいきと紹介し、人と動物たちの深い関わりや「共に生きる」というあり方を感じてもらおう。また、動物展示だけでは紹介できない内容を、パビリオン等の施設で補完し充実を図る。

##### ○参加型プログラム、イベント等の体験の充実

県内外からの来園者や修学旅行の学校団体等、多様な対象に応じて効果的なプログラムを構築し、メッセージを伝える。

## ○映像や ICT（情報通信技術）等を活用した展示演出

屋外の動物展示だけでは紹介できない内容について、映像やICT※<sup>1</sup>（情報通信技術）を活用した展示演出を行い、関心の喚起とともに情報の付加を行う。

## 時間と環境のつながり

### 沖縄の文化的景観を表現する

- ・自然環境と人の営みが織りなす象徴的な空間として「沖縄の文化的景観」を表現する。また、沖縄の伝統文化の体験を展開し、付加価値の創出につなげる。

#### <整備展開の方向性>

## ○「沖縄らしさ」と「ここでしか得られない体験」の創出

沖縄ならではの自然植生、文化、自然との共生の姿等、県外や海外からの来園者にとって非日常の体験となる空間・滞在時間を提供する。

## ○「琉球弧」の充実

動物を中心に展開されている「琉球弧」の展示と沖縄の暮らしの要素を融合し、自然と文化が織りなす象徴的な空間として「沖縄（琉球）」の文化的景観を創出する。

## 世界中から訪れる人々とのつながり

### 誰もが快適に過ごすことができる

- ・訪れる誰もが快適に過ごすことができる施設として、空間や設備、サービス等について、適切な配慮を行う。

#### <整備展開の方向性>

## ○快適な移動や滞在のためのユニバーサルデザインの導入

訪れる誰もが快適に移動することができ、楽しく過ごすことができるよう、ユニバーサルデザイン※<sup>2</sup>を行うと共に、職員やスタッフの人的対応等のソフト面による対応も図る。

※1 ICT(Information and Communication Technology)は、「情報通信技術」の略。

※2 ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がい・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）をいう。

### ○強い日差しや雨天への対応

沖縄の気候をふまえ、強い日差しや突然の降雨にも対応できるよう、建築構造物や緑陰を整備する。

### ○食に関する多様なサービスの提供

ハラール（イスラム教において食べることが許されている食材や料理）やアレルギー対応等、来園者が抱える制限に対応したサービスの提供を図る。また、マクロビオティック（その土地の食材をまるごといただくことを重視する食事法）等の多様な料理メニューを展開する。快適な滞在を支えるサービスとしてのみならず、食に関する多様な価値観について紹介する取り組みとして位置づける。

## 観光促進、地域活性化へつながる魅力的な交流促進の拠点となる

- ・「沖縄こどもの国」の活動を通して、世界中から多くの人が集い、交流する魅力的な場となることで、人材育成と共に本市及び沖縄県の観光促進、地域活性化の拠点を創出する。

### <整備展開の方向性>

#### ○新たな観光創出につながるナイトズー（夜間開園）

沖縄観光の新たな魅力として、夜間の観光活動につながるナイトズーの検討を図る。常設のナイトズーは、国内初であり、日本一ユニークな施設の展開として、特徴的な要素となるものとする。

#### ○多言語対応や直感的な理解を促す情報発信手法の導入

国外からの観光客への対応、そして世界中からの集客促進に向け、「沖縄こどもの国」のサイン、ホームページやマップ、パンフレット等の多言語対応を行うとともに、言語に拠らないちよっかんてき直感的な理解を促すオブジェやビジュアルサイン等の積極的導入を図る。また外国語に堪能なスタッフを配置・育成し、人的な多言語対応も行う。

#### ○細やかなサービス・接遇の提供

受付係、飼育員、飲食・物販施設のスタッフ、清掃員等、「沖縄こどもの国」で働く人はすべて基本理念、そして望ましい接遇のあり方を共有し、常に向上を図って、細やかなサービス、接遇の提供を行う。

#### ○市内回遊性の促進

本市の中心市街地活性化の取り組みとの連携により、相互の情報発信や連携イベント等の展開を図り、来園者の市街地への回遊の促進を図る。

## 動物と人のつながり

### 人と動物が同じ目線で互いを見つめ、動物の目線で世界を見つめることができる

- ・動物展示において、「見る」「見られる」という固定的な位置づけを行わず、動物たちのいきいきとした姿を見ることができる展示、動物が人を見つめる目線を感じることができる展示の両方を実現する。

#### <整備展開の方向性>

##### ○動物目線でのストーリー構築

動物たちの特性や個性、現在、動物たちが置かれている環境等、動物の目線から見たストーリーや動物の世界に入り込むような展示演出の構築を図る。

##### ○世界とのつながりを感じる俯瞰的視点の導入

地球上の森林、草原、水辺といった自然環境とそこに生きる動物たちを総合的に見つめる俯瞰展示を行い、人も動物も同じ地球に生きるいのちの一つであり、つながっていることを感じる場を提供する。

## 自分と家族のつながり

### 今を生きる自分と家族、先祖とのつながりを感じることができる

- ・「沖縄こどもの国」の展示や体験、出会いやふれあい等を通して、多くの来園者が自らのこととして、いのちと生きることについて感じ、気づきを得ることができるようにする。

#### <整備展開の方向性>

##### ○「文化」の視点から、人と自然、人と動物の関係性を伝える展示演出

動物たちを中心として、「文化」の視点から人と自然、人と動物の関係性を、映像や音響、わかりやすい解説等で伝える展示演出を行う。

##### ○交流する場所や時間の提供

飲食・物販機能を、単なるソフトサービスとしてではなく、「沖縄こどもの国」の基本理念を伝えるための手段として位置づけ、訪れる人々が交流する場や時間を提供する。

## ○世界や郷土とのつながりを感じる飲食・物販機能

飲食・物販施設で過ごす時間、購入するメニューやグッズ等を通して、多様な「食」のスタイルや価値観、フェアトレード<sup>※3</sup>、郷土の工芸、文化、食文化等、世界や郷土とのつながりに対する気づきを促す。

また、「沖縄こどもの国」の飲食・物販施設を地産地消の活動展開拠点として活用し、本市の産業活性化・産業育成の取り組みと連携させ、本市全体での活性化につなげる。

## いきることの大切さと世界を見つめる感性を養う人材育成の場とする

### あそびを通して、多様なまなびや気づきを得る豊かな感性を養う

- ・こどもも大人も共に楽しみ、それぞれにまなびや気づきを得ることができるよう、「あそび」の視点を取り入れる。
- ・「いのちの縦のつながり」に関する多様なテーマについて、未来に向けて自分たちにできることを発想し、行動につなげていくことができる展示や普及活動等を展開する。

### <整備展開の方向性>

#### ○動物園・博物館施設という枠を超えた「楽しい」機能の複合

観賞中心の施設ではなく、能動的な「あそび」の要素を通して、多様な気づきや豊かな感性を培う。動物たちの生態についても、動物にふれたり、あそびを通して、多様ないのちのあり方、生き物の不思議を感じてもらおう。

#### ○園内の有機的な連携の推進

動物園、ワンダーミュージアム、チルドレンズセンター、ふるさと園の有機的な連携を促進し、園全体で科学や文化の視点を取り入れた多様な活動を展開する。

#### ○無料ゾーンの充実

園内の「あそび」の要素から生まれる楽しさや賑わいを無料ゾーンでも展開し、日常的な利用においても、「沖縄こどもの国」の基本理念が感じられるような一体感を生み出す。

## 「沖縄こどもの国」の魅力あふれる世界観の創出

### 魅力ある世界観を創出する

※3 フェアトレードとは、国際的な貧困対策、環境保護を目的とし発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することを通じ、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立をめざす運動。

- ・世界中の人々が「行ってみたい」と思う、魅力ある世界観を創出し、園内空間や事業活動等を通して表現する。積極的に魅力を発信し、来園を促進する。
- ・魅力的な世界観の下で、満足度の高い体験、充実した時間を過ごすことで、「沖縄こどもの国」の来園を来園者にとっての忘れられない記憶となるようにする。それによりリピーターの確保を図ると共に、「沖縄こどもの国」の認知度や施設イメージの向上を図り、持続的な集客力の創出につなげる。

### <整備展開の方向性>

#### ○デザインディレクションによる統合された世界観づくり

基本理念に基づいた世界観を創出し、支え、「沖縄こどもの国」の多様な機能を「魅力」に向上させ、広く訴求する力となるデザインディレクション※4を行う。

#### ○五感に働きかける展示演出の導入

「沖縄こどもの国」全体の空間を楽しめるよう演出する。娯楽性に溢れ、五感に働きかける展示演出を行うと共に、感性を刺激する世界観を創出する。

#### ○「沖縄こどもの国」ならではの気候や、地形、植生の活用

「沖縄こどもの国」の独自性につながる熱帯・亜熱帯の気候、植生、また土地の起伏や既存の池等の自然要素を活用する。

#### ○世界観の発信につながる楽しい思い出の場づくり

楽しい体験を思い出として記録し、また友達に伝えたいような、写真に撮りたくなる景観や話題の提供を行う。

※4 デザインディレクションとは、デザインの対象や領域に対し、デザインのコンセプトや方向性を示し、それを総合的に管理・監督することをいう。